2 体験を理解する

③ 体験の深まり、広がりを読み取る

子どもは、自ら興味の対象に関わることで生じる好奇心や探求心が満たされるように、意欲的に活動し体験を深めていきます。しかし、子どもらしい発想や予想により、活動を継続する過程で、目的や遊びの方向性が変わる場合があります。

以下の事例は、子どもたちがカエルへの**好奇心や探求心を深め**ています。「科学する心」が育まれる体験が深まる中で次々に**好奇心が広がり、新たな目的「池作り」では更に体験が広がって**います。**子どもたちの思いや疑問、好奇心に添って保育が展開**しているので、興味の対象の広がりをクラスで共有することができ、話し合いや協力を重ねる協働的な取り組みにより体験の広がりも共有されています。

「カエルの棲み処を作ろう」 5歳児

学校法人仙台みどり学園 みどりの森幼稚園

<体験の深まり>カエルに関わる探求の深まり

見付ける、興味をもつ 【森の中でカエルつかまえたよ!】

捕まえたカエルは、**色や模様などの特徴からアマガエルだと分かり、子どもたちはカエルの種類にも興味をも** つ。タライに水を入れ、木の枝や大小様々な石を置いて「かえるのおうち」を作ったり、園庭に川を作り泳が せたりして、カエルと遊ぶ日々が続く。少しして、子どもたちはカエルに元気がないことに気付いた。 「カエルは何を食べるんだろう?」と疑問が浮かび、カエルの餌調べをする。

疑問や不思議を感じる 【ミイラのカエルだ!】

ミイラのカエルを見た子どもたちは、どうしてこのようになったのかを話し合う。子どもたちは「どうしよう?」と考え合ったことで、自分たちがしていた「お世話」とカエルにとって必要な世話は違うことに気付くきっかけになる。それまで興味が薄かった子どもたちにも「カエルへの興味」が沸き起こる。

好奇心が深まる 【オタマジャクシを飼う】

日常的に散歩に行く寺へ、オタマジャクシ捕りに出かける。田植えをした時には、オタマジャクシやカエル、イモリを捕まえた。この頃からイモリやカナヘビなど、カエル以外の生き物にも興味をもつ。自分のカエル(オタマジャクシ)を捕まえたことで、カエルやその住んでいる環境に興味がより深まった。



探究心が深まる 【幼稚園にも池が欲しい】

カエルの餌を調べ、園のコンポストでショウジョウバエを捕まえる。食べる瞬間を見たい子どもたちは、クモやハエなどを捕まえては飼育ケースに入れ、カエルが餌を食べる様子を覗いている。

「カエル」の鳴き声、種類、餌、体の色などいろいろなことに興味が出て、子どもたちなりに調べる姿が多くなる。そして、カエルの棲む環境についても考えるようになる。そんな中、A児が家から持ってきた図鑑には、カエルの飼い方が載っていた。B児が持ってきた絵本は、カエルのためによい池の話であった。「幼稚園にもこういう池ほしいな…」「飼育ケースよりも池の方がいいのかな?」と気付き、池にしようと園庭を掘る。「カエルのために一番いい環境ってどんなところだろう?」という探求を深める。

<体験の広がり>探求の深まりにより、カエルの棲み処や取り巻く自然に関わる体験や学びが広がる

興味が広がる 【池を作ろう】

雨が降った次の日、掘った穴の中に雨水がたまり「池」のようになる。最初は「カエルの池になった!」と喜ぶが、よく見ると「なんか茶色で濁っているね」「おもちゃとかも浮いてるよ」と、様子を見て困り、クラスのみんなに伝えた。そして、池の場所、クラスみんなで話し合う。



○園庭のどこが池に良いか話し合う。「餌がある、日陰がある、葉っぱとかいっぱいある・泥水にならない、 カエルが集まりそう、あまり見付からない、人が落ちない、広い所」が良い所だと考える。

「どんぐり組の畑の前」は、広くていい、でも3、4歳児が遊んでいる。「非常滑り台の脇」は、狭すぎる・虫がいない、でも日陰はある。「ツリーハウスの脇」はケードロしている時に落ちる。「森の中」は狭いので落ちる、でもクモとかいっぱいいる。それぞれの場所に良し悪しがあることに気付く。

○ 形や大きさを話し合う。池の形は「ひょうたん」か「丸」の2つに意見が分かれ、話し合いを重ねる。 「丸の方が掘りやすいし、全部同じ深さにしたら上にカエルとかが住んで、下は魚とか泳げるよ」とD児がみ んなに話す。話し合ってみんなが納得する池の図を描き、池の形などが決まる。

学びが広がる 【池は、どの生き物にとっても「自然」なんだ】

「どうしたらカエルの餌がたくさん来てくれるのか?」という問題がクラスの話題になる。「花をいっぱい植 えたらチョウチョが来る」「池のそばに木を置いたら、自分で巣を作るんじゃない?」などと話し合い、「カ エルのために木を植えよう!」と決まる。

ところが、フクロウがカエルをくわえている写真が載っていた図鑑を見て、「池の周りに木があると、フクロ ウが来てカエルを食べるのではないか!?」と気付いた。みんなは驚き、カエルを守るためにどうしたらいい かを考え始めた。「カエルは食べられたくないけど、木を植えないとカエルの餌もなくなる。でも木があると フクロウが来てしまうかもしれない」という困難に子どもたちはぶつかった。

「カエルは食べられたくないから、絶対に木は無い方がいい」「木があると、餌も来るし、日陰もできるから あった方がいい」と話す中、「カエルが食べられるのは嫌だけど、カエルも餌がないとダメだから仕方ないか な」という声が出てきた。それを聞いた子たちも、「仕方ないのかも…」と思い始め、「カエルのために木を 植えよう!」と、全員が納得して決まった。子どもなりに、池の中で暮らしているのはカエルだけではないと いうことや、食べたり食べられたりすることは仕方ないと感じた。話し合いの最後でF児が「自然だからしかた ない」と発言した。(子どもなりに自然の中にある生態系の存在に気が付いた瞬間ではないか)

池作りで広がった体験の流れ

① 場所・形・大きさが決定!!

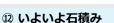
3 どんな生きものを入れようかな?

「カエル!」「木を植えたい!」など









「土と泥を使って固めるんだね!」 「石を運ぶのって大変」 「ケガもして嫌になってきた」

池作りの準備

- ・場所・形・大きさを決める
- ・防水シートが必要

(4) 鈴木さんにまた聞いてみよ う!

「一緒に入れちゃダメな生きも のもいるんだ」 「ぼくたちが作ったのは "ビオ トープ"っていうんだね」 「植物を植えると生きものが来 るんだね」

池が完成!!

② 穴掘り開始

「こんなに深く掘るんだ…」



③ 石積み 「幼稚園中の石を

集めろ!」



④ 水を入れてみよう防水シート を入れないでどうなるか実験





⑤ 水が無くなっちゃった! 「やっぱりシートは必要だね」



⑥ シートってこんなに高価なも のなの!?

「どうしよう・・・?」



⑦ みんなで働いてシートを買おう!!



自分たちで育てたお米を売ればいいんだ!



⑧ 防水シートが届いたよ 「大きいシート! どうしたらい いんだろう?」



⑪ 水を入れて漏れないか確認

「ちゃんとひょうたんの形になったね!」



⑩ 穴を掘りなおして、池の壁を 均していよいよシートを敷いてみ よう!

「(こてを使いながら)こんな道 具があるんだね」



9 専門家にお手伝いをお願いしよう 池作りの博士・鈴木さん(泉緑化) との出会い







